（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人　ふたば福祉会　　「はぐみ」			
○保護者評価実施期間	令和8年2月6日		～	令和8年2月14日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	22名	（回答者数）	18名
○従業者評価実施期間	令和8年2月6日		～	令和8年2月20日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	7名	（回答者数）	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月24日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの状態やその日の集団の具合を確認しながら、個別の部屋をエスケイプやクールダウンの場所として使用できるように柔軟に運用している。	こども自身が不調の自覚や自分でエスケイプを訴えた時に自己決定・自己選択として、「静養室でゆっくりしたい」と伝えてもらってから使用できるようにしている。	見守りや支援のスタッフ数が十分確保できたり、運営の状況が許せば、希望選択制で色んな活動に合わせた部屋の使い方を個別にしていきたい。
2	従業者向け評価表により、事業所の自己評価を実施してもらいその結果により課題や改善すべき点を掲示板やホームページで公表し、改善につなげている。また、別途の職員会議や業務改善アンケートにより職員等の意見を把握する機会を設けています。	業務改善をすすめるための目標設定と振り返りの会議を全職員が参加して実施している。会義記録をきちんと残し、都合により参加できなかった職員も目を通し共有するようにしている。	今後についても継続して従業者向けの評価表により、従業者に対して自己評価を実施してもらい、忌憚のない意見や改善すべき内容を提案してもらう事を継続的に繰り返していきたい。また、職員会議のテーマやアンケートのなかみを業務改善に絞って取り組みたい。
3	事業所開始以来、毎月1回のペースで定期的に通信を発行し、支援プログラムの月予定のトピックスや行事予定、ペアレントトレーニングの情報や子育て支援の情報を発信してきました。今後もホームページを活用し業務に関する自己評価の結果をこどもさんや保護者に対して発信していきます。また通信を利用し活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を発信していきます。	できるだけわかりやすく、具体的に支援プログラムを実施しているこどもさんの様子がしっかり伝わるように、写真を使用し、こどもさんや保護者に情報を発信してきました。	今後も必要なタイミングで必要な情報を発信することを目標に通信を発行していきます。継続は力なりで毎月発行を欠かすことなく、ペアレントトレーニングの情報や子育て支援の情報や研修会・相談会の情報もタイムリーに発信していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていない。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされていない。	四十数年使用され閉園した保育所跡の建物をそのまま改築もせずに、自分達で部分的に手を入れて構造化された環境を目指しているのでバリアフリー化や、環境上の配慮が適切になされていない。	現在の生活空間をこどもにわかりやすく構造化された環境に改造する計画を立てる。また、合わせて設備等も障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、構造上の配慮が適切になされるように変更していく計画を立てる。 そのためには予算や運営状況もよく確認、研究しながら具体的な補助の申請等にも踏み出していかなければならない。
2	数年来の継続課題として、放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がないというのが改善すべき課題です。	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会には少し、お互いの距離を感じるので、お互いの距離を縮めるためにこちらから出会いに行く、 まずは自分達が子育て支援施設や放課後児童クラブに出向いて見学するところから交流を始めていかなければ交流も始まらないし活動も生まれないと感じています。	地域交流を進めていくためには、自分達が事業所として待ちの姿勢ではなく、本当の意味での地域のこどもたちの中へ自分達から、勇気を出して一歩踏み出していくことでしか目標を達成できないと考えています。
3	今の時代や保護者の意識の変化や、就労状況や生活の実態に合わせた、父母の会の活動の支援を行えていない。保護者会の開催等による保護者同士の交流の機会を複数もうけたり、こどもが来たいと思えるような交流イベント、十分なきょうだい同士の交流の機会が設けられていない。	私たち事業所の職員が今のご利用している保護者の方の意識の変化を敏感に感じられてなく、求めている保護者会の活動のあり方の工夫や保護者同士やきょうだい同士の交流に出かけてみたいと思える企画を提案する事が出来てないことが保護者同士の交流の場が固定化してしまっている原因だと感じています。	たくさんの保護者が来たいと思える保護者同士の交流の機会を設けたり、たくさんのきょうだいが参加したいと思える、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、もっときょうだいも保護者も参加しやすいイベント・活動の開催を目指して創意工夫をしなければなりません。